

千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第49週 (11/30-12/6) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	49週	48週	47週	46週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千 葉 県	
		注 意 報	11/30-12/6	11/23-11/29	11/16-11/22	11/9-11/15		11/23-11/29
			49週	48週	47週	46週		48週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	1	
	咽頭結膜熱		2	2	1	4	16	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		16	5	8	5	57	
	感染性胃腸炎		31	21	13	25	151	
	水痘		3	7	2	4	35	
	手足口病		0	0	0	0	1	
	伝染性紅斑		0	0	0	1	1	
	突発性発しん		8	11	13	12	44	
	ヘルパンギーナ		3	1	2	4	6	
	流行性耳下腺炎		2	1	1	3	9	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	1	0	0	4	
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0	
	流行性角結膜炎		0	0	4	2	5	
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0	
	無菌性髄膜炎		0	0	0	3	0	
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(49件)

※新型コロナウイルス感染症46件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	80歳代	病原体遺伝子の検出	梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出
結核	女性	30歳代	IGRA検査	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代~80歳代	病原体遺伝子の検出等

*第49週は、結核2件(146)、梅毒1件(20)、新型コロナウイルス感染症46件(1130)の発生届があった。

※ ()内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第49週のコメント

調査対象の全ての感染症で、過去10年の同時期と比べると平均を下回ったか、発生報告がなかった。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第48週は0.63で、過去10年の同時期と比べると非常に少なくなっています。都道府県別では、鳥取県、福岡県、宮崎県の順に多く報告されています。千葉県は0.43で全国レベルと比べると少なめとなっています。

千葉市では第46週から増加傾向にあり、第49週は前週より増加し0.89となりましたが、過去10年の同時期と比べるとやや少なめです。区別の発生状況は、緑区(3.00/定点)で最多で、同区の4歳、5歳及び10歳代前半で多く発生報告がありました。今シーズンである2020年第36週から第49週までの累積報告数は66件で、男性が53.0%(35件)、女性が47.0%(31件)で、年齢階級別では5歳及び10歳代前半(共に18.2%:12件)、4歳(13.6%:9件)の順で多くなっています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群レンサ球菌による上気道の感染症です。

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込んだり(飛沫感染)、細菌が付着した手で口や鼻に触れる(接触感染)ことで感染します。潜伏期は2~5日で、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛により発症します。

乳幼児では咽頭炎、年長児や成人では扁桃炎が現れます。気管支炎を起こすことも多く、発疹を伴うこともあり、リウマチ熱や急性糸球体腎炎などの二次疾患を起こすこともあります。

予防としては、患者との濃厚接触をさけることが最も重要であり、手洗いや咳エチケットが有効です。

